

シラバス参照

科目名	ボランティア活動論
担当教員	及川 真一
所属	介護福祉学科
研究室番号	311
必修/選択	選択必修
学年	1年
開講時期	後期
授業形態	講義・演習
単位数	2
時間数	30

授業の目的	ボランティア活動の意義や役割、実践の歴史を学び理解すると共に、実践から学び、ボランティアに求められる知識と適切な心構えを身につけ専門性を発揮できる能力を涵養する。この講義では、具体的なボランティア・災害ボランティア・市民活動の考え方や避難所運営に関する実践方法を学び、学生が自ら実践することができる力を養成する。									
到達目標・DPとの関連	到達目標					DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
	1. 地域社会の課題を知ることができる。					○				
	2. ボランティア活動方法について理解を深め、広い視野を養うことができる。					○				
	3. 災害ボランティア活動の役割と機能を説明することができる。					○				
	4. 避難所支援に必要な技術(テント設営・炊き出し)を身につける。						○	○	○	○
授業内容	回	授業内容	事前・事後学習							
	1	ボランティア活動の意義について ・ボランティア活動の歴史	事前:ボランティアの理解を把握する。(60分) 事後:ボランティア活動の歴史を理解する。(60分)							
	2	赤十字ボランティアについて	事前:赤十字ボランティアの活動内容を調べる。(60分) 事後:赤十字ボランティアを理解する。(60分)							
	3	あなたと社会とボランティア ・ボランティアセンターの役割	事前:ボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。(60分) 事後:ボランティアセンターの活用方法を理解する。(60分)							
	4	高齢者・障がい者問題とのかかわり 高齢者・障がい者問題とボランティア活動について	事前:高齢者・障がい者問題とボランティア活動を調べる。(60分) 事後:高齢者・障がい者を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。(60分)							
	5	児童問題とのかかわり 児童問題と地域社会ボランティア活動について	事前:児童を対象とした問題とボランティア活動を調べる。(60分) 事後:児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。(60分)							
	6	ボランティアとNPOについて	事前:NPOの概要について調べる。(60分) 事後:NPOの活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。(60分)							
	7	災害の理解と避難所における問題について	事前:我が国における災害、避難所について調べる。(60分) 事後:被災地における課題を理解する。(60分)							
	8	災害とボランティア 災害ボランティア活動の取り組みについて	事前:我が国における災害ボランティア活動について調べる。(60分) 事後:被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。(60分)							
	9	東日本大震災における災害ボランティア活動について	事前:東日本大震災と災害ボランティアについて調べる。(60分) 事後:被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。(60分)							

	10	熊本地震における災害ボランティア活動について	事前:熊本地震と災害ボランティアについて調べる。(60分) 事後:被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。(60分)
	11	秋田県豪雨被害における災害ボランティア活動について	事前:秋田県豪雨被害と災害ボランティアについて調べる。(60分) 事後:被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。(60分)
	12	災害時の避難所設置と運営について1 ・避難所支援に必要な技術(テント設営・炊き出し)。	事前:避難所について調べる。(60分) 事後:避難所運営における課題を理解する。(60分)
	13	災害時の避難所設置と運営について2 ・災害に対する身の周りの備え	事前:災害に対する身の周りの備えについて調べる。(60分) 事後災害に対する身の周りの備えを理解する。(60分)
	14	災害時の避難所設置と運営について3 災害ボランティアセンター運営	事前:災害ボランティアセンター運営について調べる。(60分) 事後:災害ボランティアセンター運営について理解する。(60分)
	15	災害時の避難所設置と運営について4 災害時要配慮者に応じた避難所設営	事前:災害時要配慮者に応じた避難所設営を調べる。(60分) 事後:災害時要配慮者に応じた避難所設営災害を理解する。(60分)
授業の方法	本授業は、講義形式を基本として、演習を交えながら進める。講義は、テキストとパワーポイントによる資料提示及び配付資料を用いて展開します。演習は、グループワークを行います。		
成績評価方法・基準	課題レポートを(100%)、として評価を行う。課題レポートは第7・8・9回目に実施して、それまでの授業内容に関係する課題で評価を行う。		
課題等のフィードバック	提出されたレポートについては、コメントを付して返却します。		
テキスト	及川真一『防災キャンプのすすめ』秋田魁新報社、2016.		
参考文献	小倉常明・松藤和生『いちばんはじめのボランティア』樹村房、2004. 巡静一『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規出版、1997.		
履修要件	特になし		
履修に際しての留意点	12回～15回目の授業は、本学の体育館・グラウンドで行う演習となっていますので、動きやすい服装で参加してください。		
学生へのアドバイス	人と人との関係が希薄になっていく現代社会の中で、共にかかわり合うボランティアの存在はますます大事なものとなります。理論と共に、社会の課題を学び合ひましょう。		
実務経験	実務経験:地域活性化事業や東日本大震災、熊本地震などの災害ボランティアに携わった経験をもとに、様々な実践的な事例を紹介しながら講義を行います。		